

## IPGP-ERI Workshop 参加報告(その2)

○宮川幸治 (東京大学地震研究所 技術部総合観測室)

### はじめに

2019年10月2日(水)～4日(金)に、フランスのパリにあるIPGP (Institute de Physique du Globe de Paris: パリ地球物理研究所)で開催された、第6回「IPGP-ERI Workshop」に参加したので、その報告をする。概要は、外西氏の「IPGP-ERI Workshop 参加報告(その1)」を参照されたい。

### IPGP-ERI Workshop への技術職員の参画

本Workshopは、研究者や学生による研究発表とディスカッションが主体となっているが、今回初めて技術系職員の交流枠(WG-T: Technical discussion)が作られ、地震研から外西氏と宮川が参加することとなった。

技術系職員の交流内容については、先方との協議の結果、WG-TはWG4に統合され、WG4の発表時間帯の中で、木下教授が、地震研技術部の紹介を「Introduction to ERI technical support」というタイトルで発表することとなった。また、技術系職員同士の交流を目的として「Technical Visit」が企画され、IPGPのさまざまな施設や実験室の見学をすると共に、議論する時間が設けられた。

3日間のタイムテーブルの概要を表1に示す。外西氏と宮川では専門分野が異なることが考

慮され、外西氏は「Geochemical analysis and petrology」、宮川は「Geophysical instrumentation」を中心とした見学・議論をすることとなった。

### Technical Visit (Geophysical)

Technical Visitはまず、「general visit of IPGP」から始まり、リサーチエンジニアのJean-Marie Saurel氏と共に研究所の地下1階から5階まで歩いて、どのような研究室や設備があるか、説明頂いた。実験室・作業室の多くは廊下とガラスで仕切られているので、廊下から中の様子を伺うことができ、開放的な印象を覚えた。

その後外西氏と別れ、自分はGeophysicalに関連する以下の分野の部屋などに、Jean-Marie Saurel氏と訪問し、各分野の担当者から説明を受けると共に、疑問点について議論した。

1. GEOSCOPE (広帯域地震計による世界的な地震観測網)
2. Volcano Observatories (3ヶ所の火山観測所やその観測システム)
3. Mars Seismometer (火星に設置された広帯域地震計)

またJean-Marie Saurel氏とは空き時間を使って、お互いの技術系職員の組織や業務内容

	10月2日(水)			10月3日(木)			10月4日(金)		
	研究者/学生	外西	宮川	研究者/学生	外西	宮川	研究者/学生	外西	宮川
AM1	WG1	Technical Visit		WG4 (木下教授による地震研技術部紹介含む)			General Discussion		
AM2	WG1	(general visit of IPGP)		WG3			Final Discussion, Conclusion, Perspectives		
PM1	WG2	Technical Visit (Geochemical)	Technical Visit (Geophysical)	WG3	Technical Visit (Geochemical)	Technical Visit (Geophysical)			
PM2	WG2			WG3					
Evening	Poster			Poster					

※ WG1-4は、それぞれの分野の研究発表時間帯であることを意味する

表1: タイムテーブル

について説明し合い、理解を深めた。

### 参加を終えて

まず、Jean-Marie Saurel 氏の大変な尽力に深く感謝したい。自分と外西氏の施設見学の調整などを一手に担い、研究所のさまざまな分野の人を紹介して下さい。

彼の専門が地震火山観測分野だったこともあり、広帯域地震計による観測方法や観測網の運用に関する話題で議論することができ、大変参考になった。また実験室・作業室を見せて頂

けたことは、研究発表からだけでは分からない、装置の裏側やさまざまな工夫を見たり、実際に手に取って実感したりすることができ、得難い経験ができたと思う。

本 Workshop はこれまで 2 年に 1 度、日本とフランス交互で開催されてきた。今後、日本で開催される時に **Technical Session** が催される場合には、できる限り協力し、技術交流をより深めたいと思う。